

仕事道（しごとみち） 著：岡本悠

岡本悠、仕事場4年史。2015年1月23日（金）

題、仕事道（しごとみち）、副題、メンバー論

・今の仕事場に入ったきっかけは。

：郵便ポストにチラシが入っていたのですよ。それで、電話して約束して、面接に行ったのですね。ちょっと場所はわからず川の方まで行ってしまったのですが、戻って、結局、遅刻してしまったのですが、3人の方が待ってくださり、「ようこそ！」という感じで明るく迎えてくれました。遅刻した事も全く怒ったりされませんでした。僕がパソコン検定4級、3級を取っている。というのを評価された気もしました。

・メンバーさんとのすれ違い。

：入って最初の頃から今も？（笑）僕は会社に緊張感があるのですよね。で、あるメンバーさんが会社にいらした時に、かばんを置いていたので、「片付けましょうか？」と荷物を棚に持っていこうとしたら、嫌な顔されて、たぶん「いいよ！」みたいにされたと思います。まあ、決定的に亀裂が入ったのは、僕が発送という仕事で、「僕の何個か手伝ってもらえませんか？」と言ったら嫌な顔されて、僕が少しキレテ、スタッフさんと呼んで、「あの人は仕事をしたくない」と言った事ですかね。ただ、素直に悪かったのは僕だと思っていますよ。でも最近4年経っても、挨拶しても返さないから、そういうタイプの人なのだと思って最近では挨拶をしないで無視するようにしています。まあ、そのメンバーさんだけでなく、嫌いなタイプの方は相手に合わせて挨拶しないですけどね。そうやって僕は自分のプライドを保っているのでしょうね。

・あるスタッフさんについて

：右も左もわからなかった時、僕にピットシついてくれたスタッフさんが、もう仕事場をやめられた方だ。でもあまり覚えていないのだけれど当時、入力という作業をする時に、スレとは本にこうついている跡、とか。教えてくださった。でも1年くらいで辞められたので、とにかく最初に基礎を教えてくれた方だったかな。

・東日本大震災と、仕事場の帰りのミーティング中の初めての規模の大地震、東京。

：仕事場のミーティングが終わろうとしていた頃、もの凄い地震が起こった。ただ、まだまだ仕事に反体制派を取っていた自分は地震にもさほど興味がなく、イトーヨーカドーの5階に行こうとした。しかし、エスカレーターが止まっていた。かまわず自分は止まっているエスカレーターを上り、5階についた、そこで異変に気づいた、店員さんが誰もいなくなっていて、CDや本が床に転がっていた。そういえば、その日、社長が仕事場から出ないよう

に言っていた。とにかく、それは東日本大震災でもあり、東京に住んでいる僕でも一番激しい揺れだったと思う。

・メンバーさん達については。

：ある2人の方達とは、よく映画に行って、帰りに喫茶店に寄るという事をやっていた。まあ、そのうち、僕の方が少し嫌になってしまっていて、次第に午後を通う2人に対し、自分は2、3年目から午前しか通わなくなったから、でもだんだんそういう空白の時間も含めて和解できたのか、今はご一緒に仕事をする事もできている。もう一人の方は仕事場自体を辞めているそうだ。でも4年目のクリスマス会で再開したけど。ある方とは今の家に引っ越すまでは多少家も近かったからよく一緒に帰っていた。でも、何か僕がまた、嫌になってしまったのか、それとも、午前に通うようになってからか、わからないけど、会う事が1年位なくなって、最近また和解している。

・あるメンバーさんとの大乱闘！！

：自分はケンカ、特に殴り合いなどはした事がなかった、別にこれも殴りあったわけじゃないのだけれど、2年目くらいかな、そのメンバーさんがいて、一人挟んで自分が座っていた。僕がその方に「ペン貸してくれてありがとう。」とか言ったら「別に俺のじゃないし」みたいに言われた気がして、物凄い怒りがこみ上げて来た。部屋にはその方がいない。外にいるのかと思うと、その方が部屋に向かっていた。俺は我先にドアを開け、「なんだ！さっきの態度！！」と壁に押し付けようと押し込んだ、その方もケンカだと察したらしく、押し返そうとしてきた。するとケンカに気づいたメンバーさん、スタッフさんが間に入り、ある方が「岡本さん、ごめんなさい！！」と一言添えながら、僕の体を抑えてくれた。その方が挑発の言葉を放つ。抑えてくれた方が「・・・さん（その方）も黙って！！」と声をかける。僕はその方が噛んでくるかもしれないと思い、その方の目に指を近づけた。噛まれたら、目潰ししかないな、と思った。すると、その方の眼鏡が落ちてしまった。「眼鏡をかけろ！！」とか吠えてしまったが、しばらくして、僕は力を抜いて部屋に戻った。最終的には俺も何かの力にコントロールされるように、その方と握手をして仲直りの合図をしたが、その方は何かまだしゃべっていた。自分は「もういいのだよ、終わりだよ。」とか言ったかなんかで、終わったが、産まれて初めて（まあ父親とはしたかな）取っ組み合いのケンカをした。その方とは今も別に仲がいいわけではない。別に嫌ってもいないが、それなりに神経をつかうので面倒な気持ちは持っているかもしれない。

・無断欠席をして、上司が家にかけてくださいましたね。

：もう仕事場が嫌になっていて、その頃はまだ昼だけしか通ってなくて、まだ1～2年目だった頃、仕事場を無断欠席したのですよ。そしたら、まだ最初の家で上司が自転車で駆けつけてくださり、大家さんまで関わる事態になってしまって、上司が外から「岡本さん！！」と呼んで、玄関を開けて、それからお話を聞いてくださって、とにかく原因はよく覚えていないのですが、休む時はとにかく仕事場に電話する、という事は学びました。翌日、上司と社長と3人で話す事になって、最後に僕が「こういう事をする、と、どういう事になるか

わかりました。」と反省をこめて言ったつもりだったのですが、間違っただけの思いしかわからないのか、という意味で上司と社長が部屋を出て行った感覚があつて（僕の勝手な勘違いかもしれないですけど）まあ、今、僕が自分をフォローするのなら、あの日はちゃんと反省した意味で言ったのですよ、という事です。

・上司がおっしゃった「岡本悠として生きる」の意味を探る。

:どのタイミングで言ったかわからないのですが、人生の意味は何ですか？と上司に聞いたから「岡本悠として生きればいい」という事をおっしゃいました。今の自分だと「あるがまま生きればいい」とか、とにかくある程度「自由でいい」という事なのか、まだ、自分にはわかりませんが、だんだんわかって行きたいです。

・最後に4年と1・2ヶ月程度を経過する職場ですが、言いたいことや目標は？

:とにかく自分の仕事道(しごとみち)を書かないと次には進めなかった。簡単に書くけど、ある程度の目標は5・7・10年・それ以上、職場かな。まあ考えながら進むけれど。スタッフさんは、皆いい人であればきりがいいけど。これからはちょっとした事で職場が嫌になる事も多いと思うけれど、あまり小さい事も、嫌な事も気にしないで、集団の孤独感とかも気にしないで、普通にやっていたらいいですね。(終)

仕事場、約4年と3ヶ月史。 2015年3月19日(木) コラム 文：岡本悠

題：仕事道2(しごとみち2)、副題：「チームプレー」「フォア・ザ・チーム」

・私は今の会社に約4年と3ヶ月を通ってきた。私は会社の為に働きたいのだ。趣味の為に我慢して働いている訳ではない。会社のために自分に何ができるのか？野球やサッカーの選手はチームの優勝のためにプレーする。私も会社の発展の為に働く。「チームプレー」、「フォア・ザ・チーム」だ。私がいなくても発展し、穴が埋まるかもしれないが、それでは駄目だ。私はレギュラーを譲らないし、自分が戦力となった上で発展していかなくてはならない。その中でも私が強調したいのは、「チームプレー」「フォア・ザ・チーム」で働くという考え方だ。会社のために自分に何ができるのか？今なら私は、オークションの(メモと出品)がかなり固定で自分がやることだ。それがだんだん出来るようにはなってきた。それは続けながら、他にわずかでも会社に貢献できる事はないかをあげてみると、ミーティングでホワイトボードに文字を書く作業。土曜日のミーティングで司会を務める事。土曜日にレジのお金のチェックを率先してやる事。火曜日は午後まで働くので、皆さんのコップやお茶、お菓子などを出してあげる事。まあ、決め付けてやるのではなく、気づいた人がやればいいのだが、最近、会社で過ごした感じではこの辺りになるだろう。決して大きい事ではないが、会社のためではないだろうか。それから、本でユーティリティ・プレイヤーという考えを読んだ。例えば、野球で守備が一塁手(ファースト)しか守れない選手より、他の内野や外野なども多く守れた選手のほうがいい。そう考えると、私はオークションという仕事がほとんどで、たまに自分の本を売るために、査定や入力という仕事をするが、発送、即売会、クリーニング、パッキング、チラシ配り・・・なども出来たら、会社にとっては自分がユーティリティ・プレイヤーとして非常に便利な人材になるとも考えられる。まあ正直、今の私はオークションの仕事をする事が一番合っている気がするから、もう少し先の事として考えたい。違う仕事をするのは慣れていないから、重い腰を上げるのに、苦労するイメージがあるが、やってみれば意外とやれるかもしれない。わからないが・・・と、まあ「チームプレー」「フォア・ザ・チーム」を自分なりに考えてみた。自分で書いておきながら、書いた事でプレッシャーを感じるならばやめた方がいいが、ユーティリティ・プレイヤーは別として、今、やっているオークションやちょっとした気づかいのような役割で貢献できているのなら、まずはこれを進めていけばいいと思う。付け足せば、挨拶で「おはようございます。」や、礼儀で「ありがとうございます。」や、「さようなら」を言える事も人間としては大事だ。結論はそれでも型にはめず、普通に、自然体で、楽にやる事だ(終)

2015年12月16日（水） 文：岡本 悠

岡本悠、仕事場5周年記念。6年目。

仕事道3（しごとみち3）、副題、辞表事件と感謝。

まず、仕事道3とは、仕事道「4年史」。仕事道2「4年と3か月史（チームプレー、フォア・ザ・チーム）」に続く第3弾という事である。先日の2015年12月1日で、今の仕事場が自身5周年を迎えた。つまり、今、6年目に入ったのである。「石の上にも3年」は長く感じた。そして今回の「風雪5年」ここ2・3年はあつという間だった気がする。というわけで、ここでは、前回の仕事道2、以降～先日までの約9か月での、仕事を本気で辞めようと辞表を提出した出来事等を書いていこうと思う。

ゴールデン・ウィーク（GW）つまり5月初めの休日に、ハガキで仕事場に辞表届けを送った。

ここで書いてあるのはこんな事だ。

1、まず、仕事をしたくない、と確実に思ったからです。

2、人間関係で神経がすり減り、キレそうで爆発しそうだったからです。

このハガキをスタッフの方が受け取り、それが上司に伝わり、（GW）が明けた頃、上司から、私の携帯に電話が来た。

結論から言うと、

「辞表のハガキについては、保留であずかり、という状態にします。」

という事になった。

私は本屋で「やりたい事をして（仕事にして）生きていく方法」というハウツー本などを、真剣に読みふけていた。

「俺はもう働かない、好きな事をする。」

音楽を昔やっていたので、楽器屋に行ったり、カラオケ屋に行ったりして、しばらくは音楽に夢中になった。しかし、続かなかつた。改めて結論から言うと、私は本を読む事ではないかというところまで行つたが、毎日誰とも話さず、寝たいだけ寝て、喫茶店で「仕事は何をしているのですか？」と女性のウェイターに聞かれた時、「古本屋です。」と言つた。（ほとんど通っていないのに）という状態で、ニートやひきこもりの生き方はかえって不健康で生きづらいと感じた。

私は、上司と週1、または週2くらいのペースで木曜日だけ午後約1時間近く時間を取っていただいて、いろんな事をお話しさせていただいた。女医の先生の協力もあり、私は、週2、月曜日と金曜日の午前10時～12時まで働けるまで回復した。今もそのペースで通い、白でも黒でもない灰色（グレー）だが、これでずっと通い続けられればいいと、感じている。最近、スタッフの方が、仕事後に必ず、1対1で相談に乗ってくださる。そのおかげで最近「悩みが今日もありません。」という位にまでなった（終）

2015年10月23日（土） 文：岡本 悠

仕事についての考察

私はこの2015年12月1日。だから、あと約1か月で今の仕事場に**5年通った事**になる。つまり**6年目**を迎える事になるのだ。そこで1つ記念に1つの用紙にまとめたくなった。

仕事への考え方について。

この5年間、仕事は命だ、第1の目標だ・・・とか、せめてとても大切なものだ。とか考えたりしてきた。今の自分はバランス（禅）のようだと思っている。だから、「**仕事には何も期待しない。**」と言う事によって漠然と通う事が出来るようになってきた。意気込めばクラッシュする。だから、思い切りエンジンを引いて「**仕事には何も期待しない。**」と思って通わないとやっつけられない。それが、私の言うバランス（禅）だ。禅という言葉を出したのは、「中道を行く。」というイメージ。ちょっと強引な「中道」である。

確かに突っ込みどころ満載だ。まず、「**仕事には何も期待しない。**」と思うのは勝手だが、あまり公にするほどの事でもない。会社にとっては失礼だ。それは百も承知。

そして「**仕事**」というものから、貰うものも多い。まず、**精神的に健康になる可能性がある事。**（ひどい職場なら逆になるだろうが。）少なからず、スタッフさんなり（上司）、利用者さん（同僚、仕事仲間）と、**会話をする可能性がある事。**・・・あげればキリがないが、ここでの**上司等の恩**も含め、少なくとも私は今挙げた3つは得られるのではないかと考える。

5年通った。一生通うかについて。

「石の上にも**3年**」とか「**風雪5年**」とも言うが、**継続**というものが私は本当に苦手だった。この会社にも1か月・3か月・5か月・7か月・10か月・12か月で1年。何度も辞めたくなった。同僚と口喧嘩したり、取っ組み合いの喧嘩もした、寝坊して休んだり、もう行きたくなくなって連絡しないで休んで心配させてしまったこともあった。2年目も長かった。1年半通って「石の上にも3年の半分」に来られたと思ったとは思いますが、しんどかったと思う。そして3年経った。「石の上にも3年」。そこで、1つ**自信**はついたと思う。4年目の5月から仕事を辞めて、自分の本当にやりたい事を探そうと、思い付きでぱっと「ハガキで辞表届」を出してしまったが、上司の親切な対応で、もう一度会社に戻る事ができた。1か月半程空白はできたが、そのおかげで、**私はこの会社にずっと通い続ける事が私の人生だと考えられるようになった。一生といっても自分はまだ揺れてしまうかもしれない。**でも上司は「**それでもいい。**」と言ってくださった。あとは長い目で見て、週2回位で午前中だけ通う事だったりする。今はそうは増やせない。そうは言っても私は現状維持で通いたいと思っている。上司に背中を押されれば増やす事もあるかもしれないが、一生通うのならば現状維持でいいとは思いますが、上司の方がその辺は先が見えていると思う。（終）

2015年10月23日（金） 文：岡本 悠

仕事について—対話形式で—

—いきなりですが、悠さん。あなたは仕事をどのように捉えているのですか？

・今度、今の仕事が5年経過します。最初の頃はがむしゃらに司会や幹事等、積極的にやっていたのですが、とにかく「自分が本当に仕事は何だ。」「夢は何だ。」ってずっと考えて、つい最近、辞表を会社に出したのですが、結局、会社に戻りました。そこで、初めて「自分の居場所はここなのだ。」と思って・・・ただ、仕事に積極的になろうとは思いませんでした。僕は自分のオークションメモという仕事位しか理解していない。まあ、そういう様な人もたくさんいるから、いいのですけどね。とにかく自分から会社の事について、積極的に聞いてやっていこう。というのではなく、「ただ、仕事をやる。」ですね。

—もう、積極的にはなりませんか？

・まあ、司会や幹事みたいなのはやらないだろうし、自分の今のオークションメモに引きこもっているのが、現状維持で一番合っているのですよ。この仕事に懸けていないからこそ・・・ただ、以前はこういう風に工夫したら仕事が面白くなるのではないかとかやっていたけれど、疲れますから。僕は仕事に懸けてないから、でも行かないといけない場所でもあるから、やるべき仕事は自分の中で完璧に近くやっているつもり、手抜きはしない。今後は仕事と割り切って、でも行かなきゃいけない場所だから。

—このように仕事も題材にして書けるとい事も好きですか？

・そうですね。僕が書ける範囲は「人生論（自叙伝・エッセイ等）」「仕事について」「スポーツコラム」位ですかね。本をたくさん読んでいると、だんだん書きたくなってきますよ。ただ「人生論」と「仕事について」は自分の事だからなかなか難しいです。「スポーツコラム」は見て書くのでインスピレーションが湧いて一番書きやすいですね。他人事ですしね。

—仕事の上司や同僚の方達との付き合いはどうですか？

・上司の方達は本当に恩を感じますね。同僚の方達はまあ、得意な人もいれば、苦手な人もいます。僕があまり喋る方ではないので。溶け込む方でもないですし。

—最後に今後の会社への意気込みを。

・「自然体」って捉（とら）われると逆に難しいのですが、まあ、仕事場では燃えない事ですかね。冷静でブレーキ引き放し位引いて、でも会社で従うとか協力するって場面では、素直に動いて。「何も期待せず、ただ通える」のが理想。まあ、普通にやっていますよ（終）